

【前期研修プログラム】

1. 獣医療の社会的事項

獣医療は、第一義的には飼育動物に係わる疾病等の診断と治療・処置を意味するが、これに加えて疾病等の予防、健康管理、ご家族に対する動物の保健衛生指導、さらには動物の心理、習性等を尊重しつつ、ご家族の要望・要請に対応する必要がある。したがって、獣医師が診療業務に従事するに当たっては、常にご家族の気持ちをふまえて動物に接することが必要で、安易な商業主義に走ることは厳に慎まなければならない。獣医療の社会的事項には獣医療の倫理・規範的知識、放射線防護を含む法的知識、動物福祉などが含まれる。

- 1) 獣医倫理に関する規範的知識：獣医療に携わる者として必要な倫理観、人間性と広い社会性、ご家族の要望に対する対応・態度、獣医療過誤に対する心構えなどに関する知識。
- 2) 獣医師に必要な法的知識：獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、薬事法、狂犬病予防法、動物愛護に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律(ペットフード安全法)などの関連法規に関する知識。
- 3) 放射線防護ならびに関連する知識：獣医療法のうち放射線防護に関連する施行規則、放射線障害防止法、労働衛生安全法(電離放射線障害防止規則)に関する知識。
- 4) 動物福祉論：獣医師は動物に関する専門家として、その保護・福祉に対して指導的立場が要求されていることから、動物福祉の原則である、飢えと渇き、肉体的不快感および苦痛、傷害および疾病、ならびに恐怖および精神的苦痛からの解放、本来の行動様式に従う自由など、動物福祉および人への危害防止等を含めた動物の適切な管理に関する知識。
- 5) インフォームド・コンセントの実践：インフォームド・コンセントの実践(診断と治療方針、病態と薬剤の選択、薬剤の内容、投与方法と副作用、栄養管理などについてご家族への説明と同意、診療料金などの説明)。

2. 獣医学の基本的臨床事項（一般的診療技術）

I. 内科系研修事項

- 1) 診察法
 - a. 一般診療総論(診療に対する心構えなど)：インフォームド・コンセント(説明と同意)の重要性を認識し、ご家族とのより良き信頼関係の構築・継続、対話形式などを修得する。
 - b. 稟告の聴取：最も基本である現症歴、既往歴、症状など問診による聴取などを修得し、ご家族とのコミュニケーションを図る。
 - c. 身体検査：視診、聴診、触診、打診など全身の診察法を修得し、主要な所見を把握する。
 - d. 診療記録：カルテの記載事項、方法など診療記録の重要性を修得する。
 - e. 問題志向型診療アプローチ：主症状から判断した情報収集、検査・診断計画、治療

計画の作成ならびに実施などを修得する。

- 2) 検体検査法(必要に応じて検査を実施し、解釈できる能力を修得する)
 - a. 血液一般検査
 - b. 生化学検査
 - c. 尿検査
 - d. 糞便検査
 - e. 細胞診
 - f. 遺伝子検査
 - g. 微生物検査など
- 3) X線検査法(必要に応じて検査を実施し、解釈できる能力を修得する)
 - a. X線診断(装置の操作法、撮影条件、画像処理、撮影体位、保定など)
 - b. X線読影法(頭部、頸部、胸部、腹部、泌尿生殖器、骨・関節など)
 - c. 各種造影法(消化管造影、尿路造影など)
- 4) 理学的検査法(必要に応じて検査を実施し、解釈できる能力を修得する)
 - a. 心電図検査
 - b. 血圧測定など
- 5) 内視鏡検査法(必要に応じて検査を実施し、結果を解釈できる能力を修得する)
 - a. 呼吸器
 - b. 上部消化管
 - c. 下部消化管など
- 6) 超音波検査法(必要に応じて検査を実施し、結果を解釈できる能力を修得する)
 - a. 心臓
 - b. 腹部臓器など
- 7) 採血法:臨床検査あるいは病態把握に必要な各種の採血法(静脈血、動脈血)の適応決定と実施
- 8) 注射法:治療に必要な各種注射法(皮内、皮下、筋肉内、静脈内、動脈内、点滴法、静脈確保など)の適応決定と実施
- 9) 輸血・輸液法:輸血、輸液療法の手技の修得と、適応決定と実施
- 10) 穿刺法:臨床検査あるいは治療に必要な各種穿刺法(胸腔、腹腔、関節腔、など)の適応決定と実施
- 11) 採尿・導尿法:臨床検査あるいは治療に必要な各種採尿法、導尿法の適応決定と実施
- 12) 処方・薬物療法:基本的な内科的治療法(薬剤の処方、投与方法、食餌療法を含む)の適応決定と実施
- 13) 繁殖学的知識、技能
発情周期と各種性ホルモンの関係、発情周期と膣スメアの関係など
膣スメアの採取法と評価、腹部触診による妊娠診断法、精液採取法と精液評価法、正常分娩に対する知識と介助

- 14) チーム獣医療
動物看護師、臨床検査技師、薬剤師など他の獣医療スタッフと適切に役割分担し、チームとして医療・看護にあたることの理解と実践
- 15) ターミナルケア
末期動物に対して、適切な獣医学的管理を行ううえで必要な知識、技術、管理能力の修得と実施

II. 外科系研修事項

- 1) ご家族とのコミュニケーション
 - a. ご家族と獣医師の良好な関係の構築、入退院に関わる必要事項を説明
 - b. 麻酔・手術を受ける動物のご家族に対して、個々の動物の状態を考慮した、麻酔・手術のリスクについて説明、手術内容、術後の状況の説明
- 2) 外科的事項の基本的手技
 - a. 外科手術に対する心構え
 - b. 滅菌・消毒法:無菌的処置の際に必要な各種の滅菌法、消毒法についての知識・技術、手術野の滅菌などの知識・技術の修得と実施
 - c. 手術器具、電気メスなどの使用法の修得
 - d. 簡単な外科手技:切開、止血、摘出、縫合、包帯などの適応決定と実施
 - e. 基本的な外科手技:基本的な外科手術手技の修得、適応決定と実施
(創傷処置、雄、雌の不妊手術法)
- 3) 麻酔に関連した基本的手技
 - a. 物の基礎疾患・全身状態・身体検査・臨床検査などを基にした手術危険度の評価
手術の規模・侵襲度に応じた疼痛管理、腰椎穿刺法、注射麻酔法、吸入麻酔法、気管内挿管法、徒手(呼吸バッグ)による呼吸管理
 - b. 麻酔器・人工呼吸器の使用法、各種麻酔モニター(心電図、血圧計、パルスオキシメータ一、体温)の使用法、解釈、異常時の対処法
 - c. 術前・術中・術後の管理:手術前、術中、術後の対象動物に対する管理法、管理能力の修得と実施
- 4) 術後管理に関連した習得事項
 - a. 入院中の患者の一般的な管理および処置、術後入院中の動物の全身状態の評価
 - b. 術後、動物の異常の検出、重症度、緊急度の判断
- 5) 緊急的対処法
 - a. 救急疾病に対する初期診療における臨床能力を修得する。バイタルサインの把握、蘇生法に対する知識、技術の修得(挿管法、人工呼吸法、心マッサージ、除細動、抗ショック療法などを含む)と実施